

ピア カウンセリング 紹介資料

会津大学ピアカウンセリングサークル

嶋原俊樹

永田智視

目次

- ピアカウンセリングとは何か
 - 教師とは違ったアプローチ
 - ピアカウンセリングの目的
- 実際の活動
 - ピアエデュケーション
 - ピアスペース

ピアカウンセリングとは何か



ピアっこ×生徒
(ピアカウンセラー)

ピアとは**仲間**という意味。

仲間意識を持って行う
カウンセリング活動です。

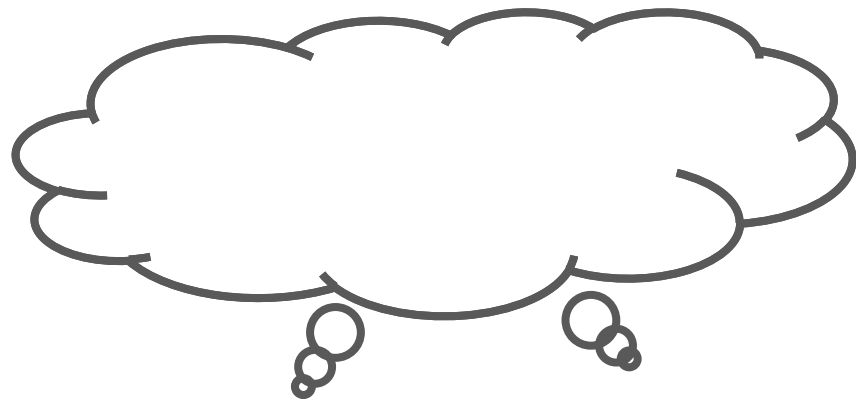
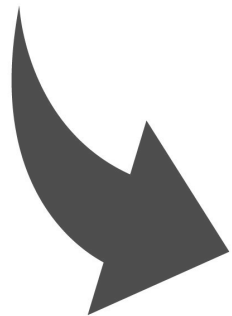
教師とは違ったアプローチ

教師から生徒に「**教える**」という

違う立場から教える、教わるの形から

仲間としてともに「**考える**」ことが

ピアカウンセリングのアプローチです。



教える・教わる

ともに考える

ピアカウンセリングの目的

生徒とコミュニケーションをとり、

自分自身の悩みを **自己解決する** 手助けをすることがピアカウンセラーの目的です。

ピアカウンセラーが答えを出すのではなく、

生徒自身に悩みを自己解決できるように

情報を提供します。

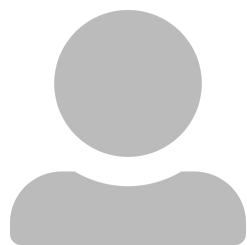
ピアエデュケーション

学校からの依頼を受けて行う

ピアカウンセリング活動のことを呼びます。

活動を通して生徒自身の課題を

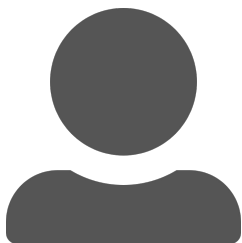
自己解決する手助けをします。



ピアっこ



生徒一名



ピアっこ



生徒複数人

1体1のカウンセリング活動とは異なり、グループワークを行います。
ピアカウンセラー1人が進行役となり生徒複数人を担当します。

60分～100分の時間を使い、
広い場所(体育館、視聴覚室など)を使って行います。

グループワーク



仲間としてともに考える



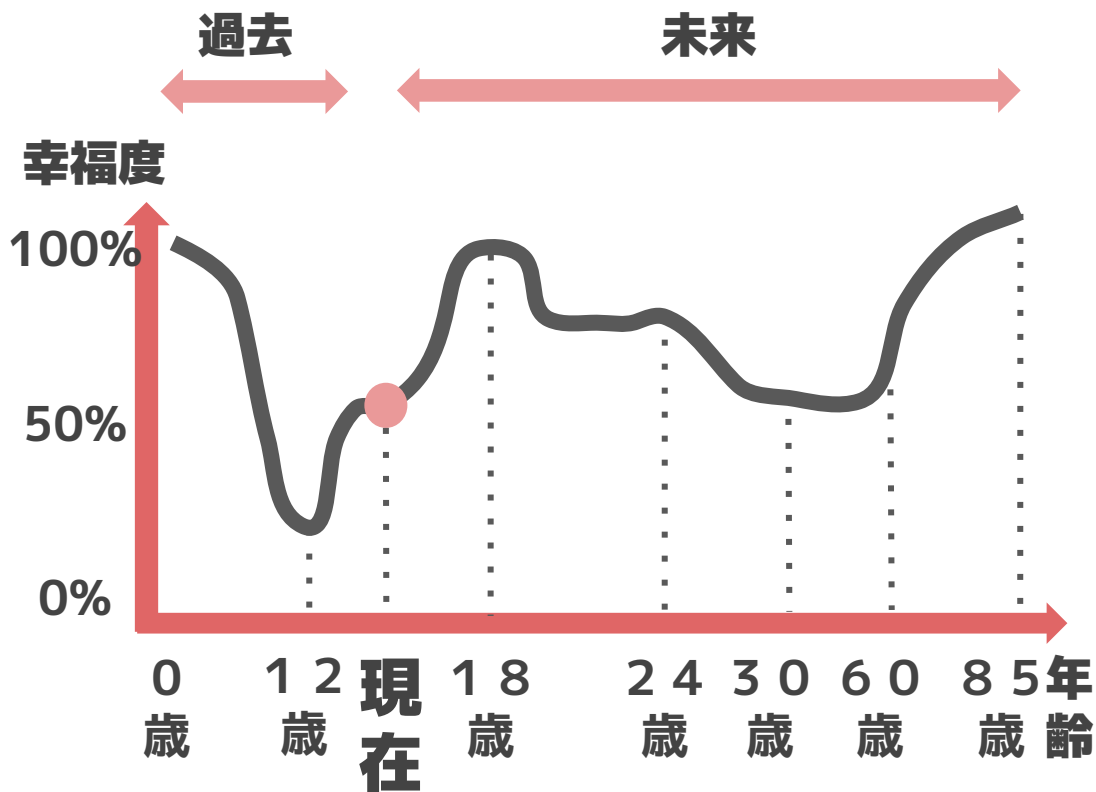
生徒の自己解決を手助け

- テーマは対人関係や
思春期の悩み
- 生徒には自分のペース
で参加してもらう

具体的な内容

- ライフラインと呼ばれる紙を書いてもらい、自分の人生を振り返り、今後を考える活動をする。
- 対人関係の悩みなどを解決するために、互いの意見を出し合いディスカッションを行う。その時、生徒にわかりやすいように簡単なロールプレイ(劇)などを交え例を提示する。

ライフラインの例



例として

- 12歳は大怪我をして悲しかった
- 18歳は志望大に合格できて嬉しいだろう
- 30歳までに結婚したい
- 30歳は仕事で忙しいだろう
- 95歳まで長生きしたい

など、現在から未来のことまでを考えてもらう



授業とは違った形式

猪苗代高校での活動の写真。

アイスブレイクで生徒の緊張を解き
活動しやすくしている。



グループワーク

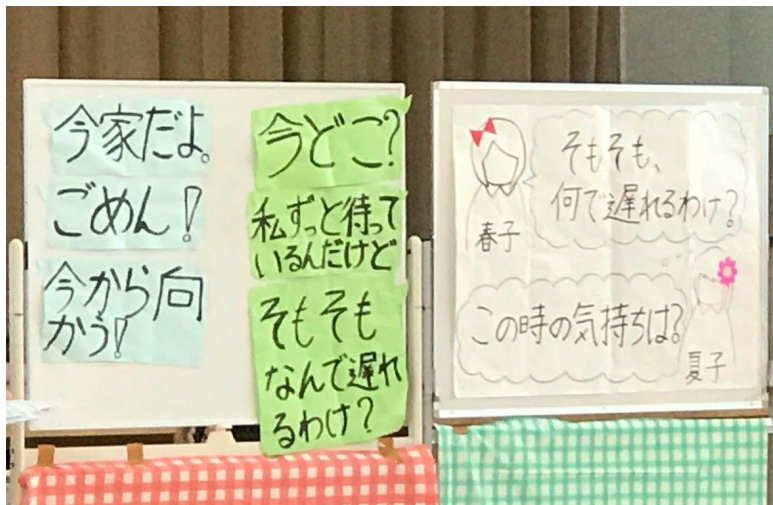
自分のライフラインを考える活動をして
いるときの写真。

この時は1グループ4～5人。



行方場所・環境

いわきの高校での活動の写真。
椅子を使わないことで、生徒が
話しやすい環境を作っている。



劇(ロールプレイ)

劇を説明する資料。
生徒に理解してもらうために、実際に
劇を行うだけでなく
資料も提示する。

ピアスペース

ピアカウンセラーが常駐し、生徒が自由に来ることができる場所を設けています。

悩みを相談する、話し相手が欲しい、ただ単に遊びに来るなど様々な目的で利用可能です。



場所： 會津稽古堂三階和室

日時： 毎月第三土曜日

13:00~16:00



連絡先

- あいづ思春期サポーターの会

小野修 ☎ 090-9636-5400

✉ osamustg@Ktf.biglobe.ne.jp

- 会津大学ピアカウンセリングサークル代表

嶋原俊樹 ☎ 080-9638-2802

✉ shigi.522@gmail.com

- 会津若松市教育委員会生涯学習センター社会教育主事

渡辺 智雄 ☎ 0242-22-4700

✉ tomoowat@tw.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp